＜地域と協働するインバウンド観光対応人材の育成について＞

研究年度　平成３１年度
研究期間　平成３１年度～平成３３年度
研究代表者名　山田健太郎
共同研究者名　松尾晋一
ウィリアム・マクドナルド
アンドリュー・ハドー
ポール・バード

０．はじめに

本研究では、地域との協働による大学におけるインバウンド観光対応人材教育に関する研究の一環として、通訳ガイド入門プログラムを大学生対象に実施し、その効果と問題点についてデータを収集し考察した。社会の情勢の影響を受けやすいとはいえ、日本社会においても観光産業の重要性はますます大きくなりつつあり、そうしたなかで、大学教育に観光を取り入れたケースが増えつつあることが、日本経済新聞の「訪日客のガイド大学生にお任せ」(2020 年 2 月 12 日)という記事からも知ることができる。山梨県立大学では地域通訳案内士のコースを大学のカリキュラムとして提供している。このような状況の中、長崎県立大学と長崎県において、実社会で専門職として活躍する人材が有する高い外国語運用能力とコミュニケーション能力が大学の教育とどのように協働する可能性があるのか、その糸口を見つけるため、今回は、通訳案内士の視点を導入して入門プログラムを運用し、その中で利点と問題点を見つけることをひとつの目標とし、また参加した学生の活動内容と英語能力の向上の関係について考察することをもう一つの目標とした。

１．研究の方法

(1) プログラムの策定

通訳案内士の中野洋子氏の協力を得て、目標レベル、想定される参加者のレベル、参加者の参加可能な時間等を考慮に入れて検討をし、以下のようなプログラムを作成した。

① 対象：グラバー園（３つトピックを各自選ぶ）
② 準備：各自日本語スクリプト作成と英文スクリプトを作成
　　補助教材による自主練習
③ 発表：学内での発表を３回（発表時に通訳案内士による指導）

長崎県は観光資源が豊富で、また世界遺産登録されているものも多く、さまざまなトピックが考えられるが、長崎市内ではもっとも人気のある観光地であり、また関連書籍が豊富に

あり、学生が自主的に調べ物をする上で不自由することのないトピックとして、グラバー園を選んだ。期間の短さと想定する学生のレベルを考えて、プログラムで学生が発表できるように準備するトピックを 3 つとすることにした。自主的な関心が自分のガイドに反映されるように、トピックの選択は各自に任せることとした。

準備段階においては、各自がメールで数回提出し、指導者から内容についてのアドバイスや添削指導を受けるようにした。日本語でまず内容を整理し、その上で英文のスクリプトを作成して発表に向けて仕上げるという手順で、段階的に目標に向かって内容を完成させるようにすることで、着実に一定の仕上がりが達成されるようにした。

一方で、長崎県立大学の全学共通科目や国際社会学科の実践科目には通訳ガイドに関連する科目がないため、通訳ガイドのための英語表現能力の素地を作るために補助教材として『日本のことを１分間英語で話してみる』を配布することとした。

発表は３回行い、同じ内容を仕上げていくことで、通訳案内士の指導を受けながら、単なる原稿の読み上げにはならない、実践的な表現能力を身につけるようにした。

⑵ 事前事後のスピーキングテストおよび事後アンケート

今回はプログラムを通した英語力の向上の指標の一つとしてスピーキング能力を測ることとした。スピーキング能力といっても様々であるが、今回はプログラム内容の活動にもっとも近いタスクとなる描写的スピーキングについてテストをすることとした。分析のポイントとしては、タランディス・ジュニア(2018)を参考にし、流暢性と文法的正確さとした。ただし、その指標として本研究では、流暢性を時間当たりの発話語数、文法の正確さは発話の同時間内における文法的な間違い件数で見ることとした。具体的には、日本の基本的でよく知られている文化事象を 3 分以内で説明するタスクを与えて、その説明音声を録音し、最初の１分間の語数と、発話の文法的な正確さを測ることとした。

想定される参加学生のレベルに合うように、タスクの難易度をやや下げるため、問題のトピックを『日本のことを１分間英語で話してみる』から選び、そのトピックについて書かれている英文を補助材料として使用した。はじめにスピーキングテストの手順について説明した文書を渡し、問題のトピックについて書かれた英文を示して６分間ほど時間を与えた。次に英文を回収して、その英文からあらかじめキーワードを表現集としておいたもの（資料１参照）を渡して２分ほど時間を与え、質問者の指示で説明を開始してもらった。事前のテストのトピックは「すし」、事後のテストのトピックは「節分」と「すし」とした。

学習効果の分析の際に、データをその背景との関連で考察ができるように、簡単な事後アンケートを実施した（資料２参照）。

２．研究の経過と結果

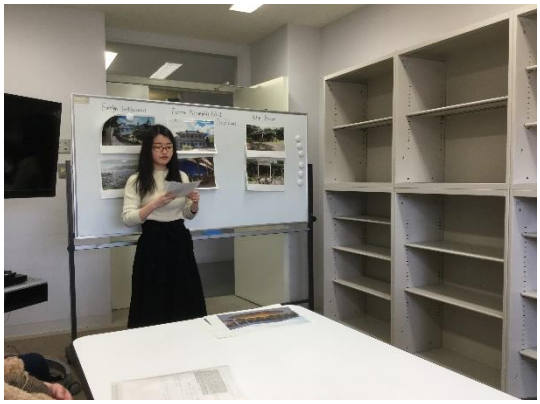
⑴ プログラムの実施

８月上旬に「通訳ガイド入門プログラム」について国際社会学科学生を対象に周知し、募

集を行ったところ、4 名の学生が参加を申し出た。すでに夏期休暇期間となっていたため、集合してオリエンテーションはせずに、メールで準備についての説明を行い、それぞれが日本語によるガイド内容案作成から準備を始めた。『グラバー園への招待』『日本のことを 1 分間話してみる』などの補助教材は、必要部分を pdf で送るなど、適宜配布した。

提出された日本語で書いたガイド内容案に中野氏がコメントをつけて返送し、それを参考に参加学生は英文スクリプトを作成した。さらにその英文スクリプトを山田と中野氏が添削し、学生が内容を仕上げて、第 1 回目の発表会を 12 月 22 日に行った。募集当初の予定では、第 1 回目の発表会を 10 月中旬としていたが、後期授業等との並行で参加学生の作業が想定通りに進まず、予定よりかなり遅れての実施となった。発表後は、中野氏から取り組みの熱心さに対する励ましの言葉があり、外国の人とのコミュニケーションとなる現場に結びつけながら、表現のしかたについて指導が行われた。

同様の手順で、第 1 回目発表会の反省をもとに、令和 2 年 1 月 17 日の第 2 回目の発表会、そして 2 月 19 日の第 3 回目の発表会と進んだ。上にも述べたが、進行が遅れて、想定よりも遅れての完了となった。発表の内容についても、第 3 回目の発表でどうにか 1 つのトピックが仕上がった場合もあったのは残念なところである。第 3 回目まで続けることができたのは 2 名であった。追跡調査は行っていないので、推測の域をでないが、真剣な関心を持って参加した学生が、実際にはこうした活動に限られた時間しか割くことができないことがうかがわれる。大学における自主的な学びが実現できる環境がどの程度あるのか、懸念されるところである。



(2) スピーキングテストの実施

第 3 回目の発表会まで完了した参加学生を対象に、事後のスピーキングテストを行った。以下に事前テストと比較した表として示す。事前テストでは 4 名が受けたが、そのうち比較する事後テストのデータがない 2 名分については、ここでは省略する。

表 1 は流暢性について事前・事後を比較したものである。数値は課題の説明を開始した後の 1 分間に発話した語数を示している。参加者 G については、かなり大きな伸びが観察される。ここには数値化されないが、事前のテストでは説明の表現の合間に日本語で「えーと」などのつなぎ言葉が入りがちであったのも、事後ではほとんどなくなっている。参加者

表１　流暢性の比較（語数／分）

	事前	事後	
	すし	節分	すし
参加者 G	44	59	55
参加者 T	42	35	37

表２　文法の正確性の比較（間違い数／分）

	事前	事後	
	すし	節分	すし
参加者 G	12	8	9
参加者 T	3	0	1

T については、流暢性という意味ではむしろ、やや低くなっている。ただし、これは単純に言葉が出なくなったということよりも、事後テストの際の方が、より発話に慎重になっている様子がうかがわれた。

そのことは、表 2 の参加者 T の文法の正確性の伸びに読み取ることが可能ではないかと思われる。事前でも発話の中の文法的な間違いがかなり少なかったが、事後はさらに間違いの少ない発話となっている。参加者 G についても、文法の間違いの少ない発話という意味で若干の伸びを観察することができた。

以上のように、事前と事後の比較に英語力の向上の傾向がある程度あらわれている。ただし、今回のプログラムでこの変化が起こったのかは、参加者が国際社会学科 1 年生で、後期に英語科目を必修としてリーディングⅡ、ライティングⅠ、オーラル・コミュニケーションⅡ等を履修しており、単純には判断ができない。

一方アンケートで、このプログラム全体でどの程度の学習時間があったのか、会話練習として配布した教材での学習時間はどの程度であったのか、について質問をした。まず、全体の学習時間は、5 時間未満 1 名、10 時間以上 20 時間未満 1 名であった。配布した会話練習教材『日本のことを 1 分間英語で話してみる』での学習時間の回答は、2 名とも 5 時間未満となっていた。このプログラム全体での学習時間が大学の外国語の授業の 1 コマあたりの標準的学習量 15 時間にはおよばないレベルであったことがわかる。プログラムの一環として、定期的な勉強会も考えたが、スケジュール調整の困難さから実現できず、各自学習のみ

の活動であったことが、会話練習に関する学習時間の少なさにも大きく反映されている。アンケートの振り返りの意見として、「集まって会話練習をする機会があるとよかった」という内容の意見があったのは、そうした練習不足を自覚していたということであろう。

今回のプログラム内容に追加を要望することを尋ねた質問にたいする回答には、実際に外国の人と現地を歩いて案内してみたい、という意見もあった。より高い技術を習得できる仕組みの構築を前提として、その高い技術を試してみる現実体験という目標を設定することは、大いに意義のあることであろう。

３．まとめ

以下、通訳案内士の中野氏の意見も交えながら、今回のプログラムを振り返る。まず何よりも特筆しておくべきなのは、応募してきたがゆえにある程度当然とはいえ、参加学生の通訳ガイドという職業に対する深い関心であろう。外国人を案内する際に必要な異文化コミュニケーション知識やゲストを楽しませる会話術に非常に大きな刺激をうけた様子がアンケートにも書かれていたし、また指導の直後に長時間の質問をしていた様子からもうかがうことができた。指導の際に中野氏による実演があったことも効果を高めたといえよう。

プログラムへの全体的な取り組みとしては、学生はとても真面目にタスクをこなし、準備したプロセスにそって一定の進歩を見せたといえよう。各自の工夫したトピックには、ゲストを楽しませる気持ちが表現されているものも散見された。しかしながら、一方で、本格的な実社会で通用する通訳ガイドのレベルには、まだかなりの距離があった。3 回目の発表でもスクリプトを見ながらの発表となっていたのは残念である。課外活動としてある程度の達成レベルを可能とするのはなかなか難しい今後の課題である。山梨県立大学のような 20 単位以上で地域限定特例通訳案内士の受験資格を得られるコースとはいかなくても、実践科目等の枠組みに入れるなどすれば、こうした問題も解決しやすいのではないかと思われる。

参考文献

石川祥一・西田正・斉田智里編　『テスティングと評価　4 技能の測定から大学入試まで』　大学英語教育学会監修　英語教育学大系　第 13 巻　大修館書店，2011

冨田かおる・小栗裕子・河内千栄子編　『リスニングとスピーキングの理論と実践　効果的な授業を目指して』　大学英語教育学会監修　英語教育学体系　第 9 巻　大修館書店, 2011

トランディス・ジュニア，ジェリー　作井恵子訳　『英語教員のためのスピーキングテスト　理論と実践』　アルマ出版，2018

バーフガフニ，ブライアン編著　『ブラバー園への招待』　長崎游学 5　長崎文献社, 2010

広瀬直子　『日本のことを 1 分間英語で話してみる』　カラー改訂版　中経出版, 2014

「訪日客のガイド大学生にお任せ」　日本経済新聞　2020 年 2 月 12 日

資料１．表現集（スピーキングテスト）

「すし（と刺身）」　英語表現リスト

※参考用です。すべてを使う必要はありません。

seasoned rice 「味付けごはん」「酢飯」

topping 「すしネタ」「のせるもの」

sliced 「スライスした」

raw fish 「生魚」

Tokyo-style sushi 「江戸前ずし」

rolls 「巻きずし」

A topped with B 「B をのせた A」

treat 「ごちそう」

special occasion 「特別な場合」

in one bite 「ひとくちで」

資料２．アンケート用紙

2019 年度学長裁量教育研究費　通訳ガイド入門プログラム　活動まとめアンケート

今回の活動にご参加いただきありがとうございます。今後さらに楽しく、また教育的にも意義深い活動を考えていく上での参考になるように、ご意見・感想を聞かせてください。

国際社会学科　山田健太郎
公共政策学科　松尾　晋一

Q1. 所属学科を教えてください。

_____学科

Q2. 現在の学年を教えてください。

_____年生

Q3. 今回の活動のために、全体として何時間くらい使いましたか？選択肢でお答えください。

a. 5 時間未満　b. 5 時間以上 10 時間未満　c. 10 時間以上 20 時間未満　d. 20 時間以上

回答として選ぶ選択肢の記号は_____

Q4. 今回の活動において、話すための練習として、配布された参考書で全体として何時間くらい練習をしましたか？選択肢でお答えください。

a. 5 時間未満　b. 5 時間以上 10 時間未満　c. 10 時間以上 20 時間未満　d. 20 時間以上

回答として選ぶ選択肢の記号は_____

Q5. 今回の活動についての満足度はどのくらいですか？選択肢でお答えください。

a. 満足した　b.ある程度満足した　c.どちらともいえない　d.あまり満足しなかった。　e.満足しなかった

回答として選ぶ選択肢の記号は_____